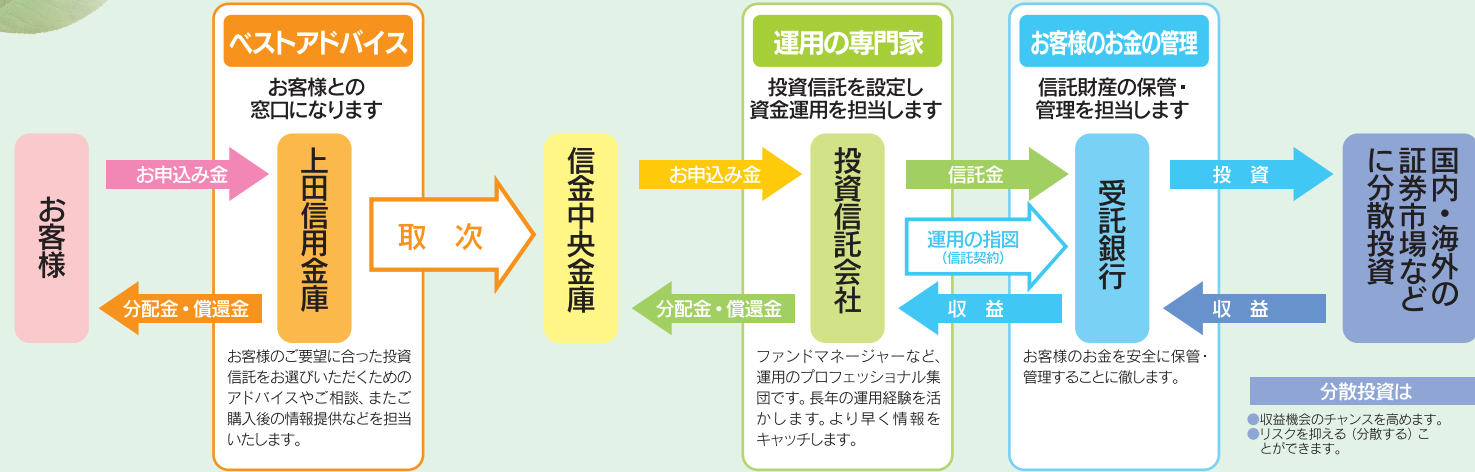


## 「投資信託」のしくみ



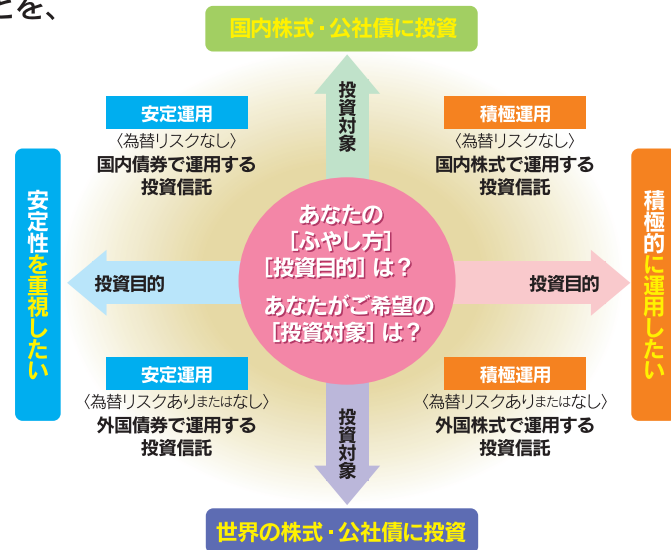
投資信託はこのようなしくみのため、販売・運用、保管・管理を行うどの金融機関が万一破綻しても、信託財産は制度的に安全です。

## 「投資信託」の選び方

1 投資をお考えの資金の「性格」「運用期間」などを、**再確認**することが大切です。

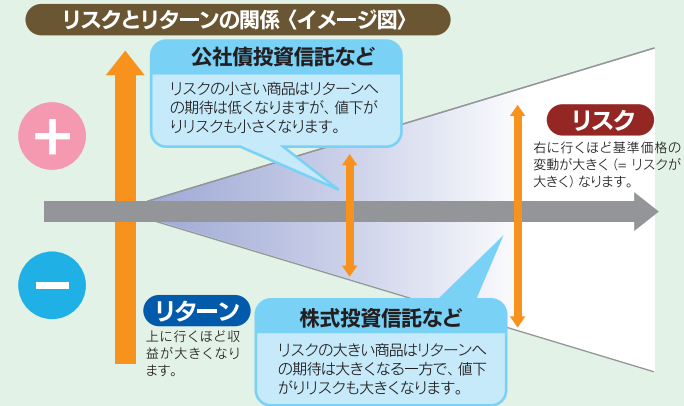
まず資金の性格(例えば、お使いになる予定のあるお金、余裕資金、毎月計画的に回す…など)を、そして、運用期間は、短期(1年~2年)か、中期(3年~4年)、またはじっくり長期運用するのか…といったポイントを、あなたの生活設計とも照らし合わせてお考えください。

2 次に、その資金の性格や運用期間に合った「ふやし方」「目的」などを考えます。



## 気になる！リスクとリターン

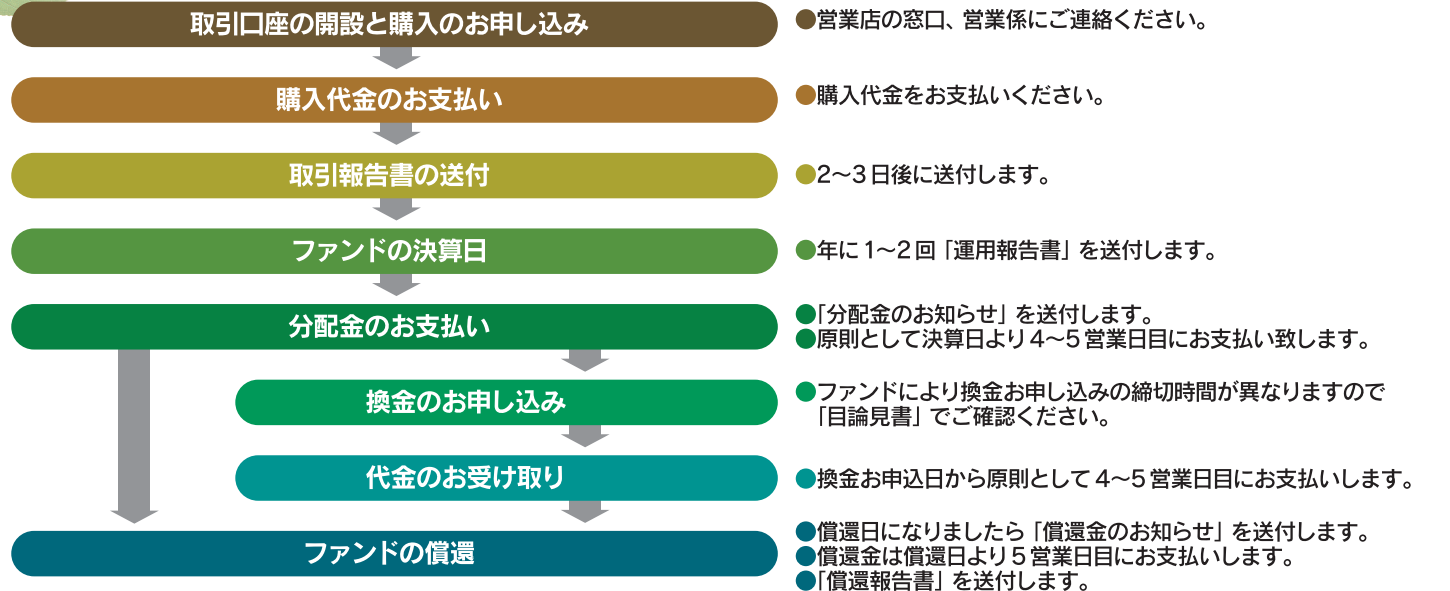
投資を考えると、どうしても収益が気になるもの。でも、リスクとリターンは表裏一体。投資信託をご購入の際には、資金の性格を考慮して、リスクとリターンのバランスをご判断ください。



### 投資信託のリスクとは

「リスク」とは「危険 = 損をすること」と訳されることがありますが、決してそういう意味ではありません。資産運用の世界では、「投資に対しての収益が確定していない」という意味であり、収益(リターン)の振れ幅の大きさを言います。投資信託は預貯金とは違い「投資」ですから、元本が保証されたものではなく、高い収益(リターン)が得られることもあれば、逆に投資額を下回る可能性(リスク)もあります。高いリターンを求めるには、それなりのリスクを覚悟する必要がありますが、リスクを軽減する方法には資産や時間などの「分散投資」と「長期投資」という手段があります。

## 「投資信託」のお申し込みから換金・償還まで

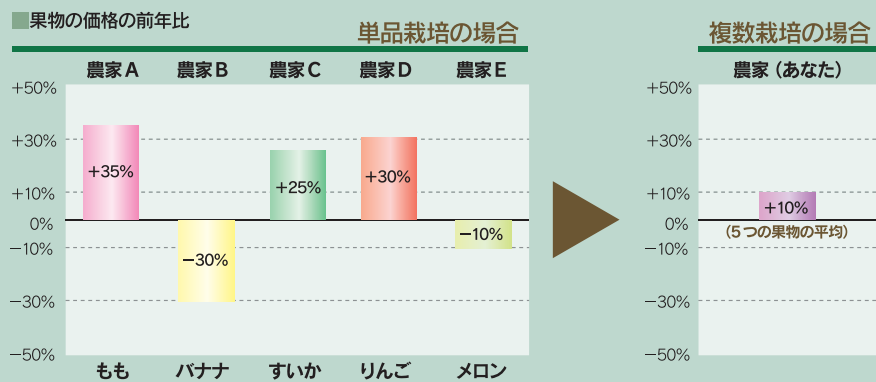


## 「分散投資」「長期投資」がリスク軽減のポイントです。

「分散投資」資金と購入時期を分散しましょう。

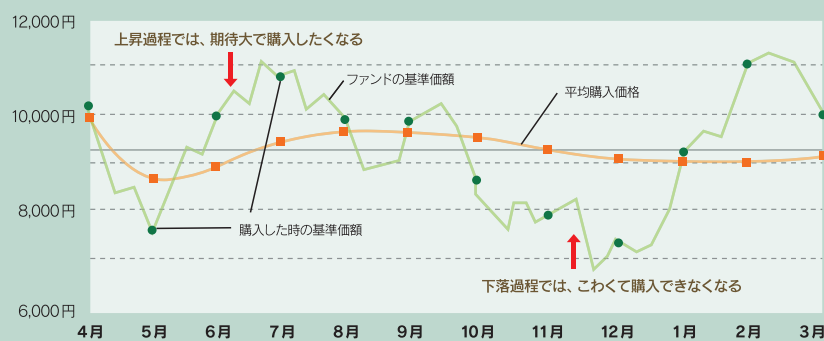
**資産分散** ● 投資対象の異なる複数ファンドをバランスよく組み合わせることです。

例えば、「もも」だけを栽培していた農家Aは、価格の上昇を受けて収入が増大し、「バナナ」だけを栽培していた農家Bは、価格の下落を受けて収入が減少しました。複数栽培の農家は、5つの果物を栽培していたので安定した収入を得ることができました。このように単品栽培(単一ファンドの購入)は、収入(収益)が大きく異なるのに対し、複数栽培(複数ファンドの購入)は収入(収益)を安定させることができます。



**時間分散** ● ファンドを購入する時期を分散することです。

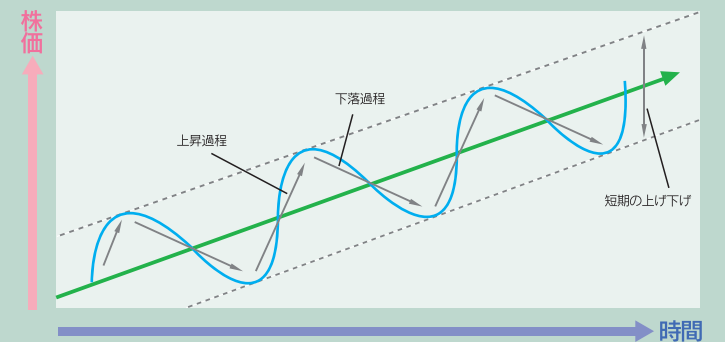
下の図はあるファンドの基準価額の推移とそれに伴う一般的な投資家心理の変化を表したものです。上昇過程では「もっと上がる」と思い購入したくなり、下落過程では「もっと下がる」と購入を控えたいくなるものです。しかし、定期的に一定金額を買付けする方法で購入すれば、購入価格を平均化することができます。



「長期投資」時間を味方につけましょう。

● 日々のファンドの基準価額の動きに振り回されず、できるだけ中長期で保有することです。

株価は、企業が今後成長すると仮定した場合、短期には大きな振れ幅(リスク)を伴いながらも、長期には企業の成長に伴って上昇する(下図中の緑色矢印を参照)と、一般的に言われています。その株式を組入れているファンドについても、一般的に同じことが言えます。つまり短期の基準価額の振れ幅に一喜一憂せず、長期にファンドを保有することが、大きなリターンの機会を得ると言われています。



※図はすべて、イメージとして作成した図であり、実際の値動き等を示すものではありません。